

カーネーションの新育成系統について

高田正統

(大分県温泉熱利用農業研究所)

TAKATA, M.

New Varieties of Carnation

カーネーションの栽培は、我国の切花生産において主要な部門をしめている。現在栽培されているカーネーションの主な品種は、コーラル、ピーターフィッシャーであり、これらの品種は花立ち多く、草勢強く、耐寒性もかなりあり、経済品種としては重要な要素を持つてはいるが花径が小さい欠点がある。しかるに近年アメリカより導入されたシム系は、在来品種に比し極めて大輪であり、多くの営利栽培者に栽培されたが、かく割れの率が高いため経済品種としては伸びなやんでいる。そこで、大輪がかく割れしない、しかも花立ちのよい経済品種育成の目的で昭和31年より交雑育種に着手し、現在も続行中であるが、その中昭和31年、32年の育成系中2、3の有望系統を選抜したので発表する。

(1) 育成の経過 昭和31年にはセレス外14品種、昭和32年にはさらにペパーミントシム外3品種を加えて品種間で相互交配を行った。

交配は9月～11月に行つた。これは観察によると、カーネーションは低温では雄芯の出現が少なく、高温において雄芯が多くなるように思われたからである。種子は交配後3～4月で完熟した。採取した種子は3月中旬播種した。初年度は無摘芯1本仕立てとして開花させ、花容のみで選抜した。第1回の選抜では、昭和31年実生より13組合せ26個体、昭和32年実生より11組合せ16個体を得た。各選抜個体ごとに増殖を行い選抜を続けた結果、次の4系統を選抜した。

(2) 育成系の特性

57-3 アポロ×イルミネーター、花色はイルミネーターに似た濃ピンクで、早生であるため夏切り栽培でコーラルより早く咲き、花立ちが多く、また茎は細いが高温でコーラルより強く伸びもよい。しかし開花後に褪色のきらいがあり、また夏栽培の場合花のもり上がりがかや乏しく、かつ露芯を呈することがあるが、現在のところ夏切りとしては、コーラルより経済的と

認められる。

57-4 ピーターソンシム × ピーターフィッシャー、ピンクの大輪、ピーターをやや濃くしたピンクで、花型もピーターを1段と大型にしたものである。茎は太くて強いが、やや晩生で夏の伸長が悪いので夏切り栽培としては不適である。しかし秋、冬の伸長はよく、草丈も高くなる。花立ちはコーラルに比してやや少ないように見える。

57-8 ホワイトシム×ピーターフィッシャー、レモンエローの大輪、花卉に薄ピンクのしまのあるのはピーターからの影響であろうが、この点純黄色とはいえない難い花色である。

また花色が少し薄く、特に夏の高温では少し褪色が見られる。高温では他の育成系に比しやや茎が弱くなるが、温度が低くなると強くなり、11月～5月出荷には差し支えない。

色彩の点では多量の需要は期待しがたいが中間色の品種として、赤、桃色などの他の色とのコントラストのためには有望と思われる。純黄色の品種育成の親として使っている。

58-4 クローリーシム×セレス、赤色の大輪、草丈はコーラルに比しやや低いが、草勢は強く、夏の高温時にもよく生長する。花卉数もコーラルより多く、花径も大きい。またアカダニはコーラルにつき易いが、この系統にはつき難いように見える。花色もコーラルより若干明かるい赤色で、いずれの点からもコーラルに比し優つている系統と思われる。

新育成系統の特性表

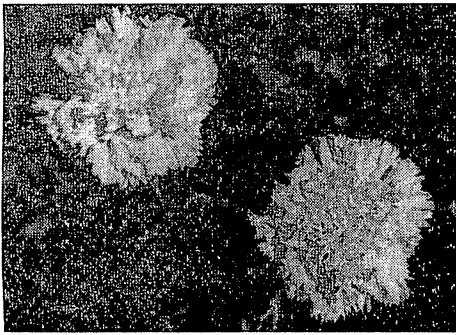
系統名	形質 一株当 切花数	草丈	花径	花卉数	節数	節間長	葉長	葉巾	
		cm	cm			cm	cm	cm	
57-3	3	8.7	84.3	7.2	43.2	15.9	8.9	10.3	0.8
57-5	5	5.1	84.8	8.1	35.6	14.2	8.7	8.1	0.7
57-8	8	6.0	76.1	8.0	40.0	14.9	9.0	11.4	0.6
58-4	4	6.5	76.7	8.3	45.0	14.6	8.8	11.0	0.7
コーラル		5.8	82.5	6.5	32.0	15.9	8.3	8.4	0.7
ピーター フィッシャー		6.0	76.7	6.5	33.4	12.9	8.6	7.9	0.8



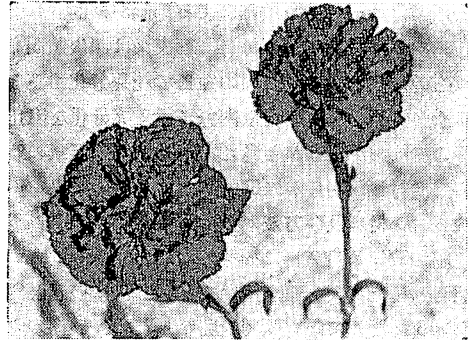
57-3



57-5



57-8



58-4

